

# 一般質問

3月定例会の一般質問は3月21日に行われ、4名の議員が村政全般にわたり質問しました。

質問項目は下記のとおりです。次ページよりやり取りの一部を抜粋して紹介します。詳細な内容については会議録の公表をお待ちください。

もろおか まさあき 議員  
諸岡 正明 議員

所属委員会：総務経済委員会

- 下水道未整備地区について
- 高橋川の治水対策について

まつむら ひろし 議員  
松村 広志 議員

所属委員会：厚生文教委員会

- SDG sの取り組みについて
- 交流人口の増加について
- 災害対策について

はやし しょうこ 議員  
林 昌子 議員

所属委員会：総務経済委員会

- RSウイルス感染症ワクチン接種について
- フッ化物洗口推進事業について
- 低出生体重児等の就学猶予又は免除について

つかもと こうじ 議員  
塚本 光司 議員

所属委員会：厚生文教委員会

- 本村、自主防災組織について



一般質問

下水道未整備地区について



もろおか まさあき  
諸岡 正明  
議員

**質問** 本村の汚水処理人口普及率は令和4年度末で92.5%と茨城県内で上位を占めている。下水道未整備地区の計画を伺いたい。

**答弁** (経済建設部長) 布佐地区の一部、大谷地区は工事を開始。余郷、宮地地区は事業採択や工事の進捗によるが、令和8年度以降に順次工事を開始していく。4地区とも公共下水道で整備予定である。

「高橋川の治水対策について」

**質問** 昨年6月2日〜3日の集中豪雨により、高橋川が氾濫し、本村・稲敷市ともに家屋、水田に大きな被害が確認

SDGsの取り組みについて



まつむら ひろし  
松村 広志  
議員

**質問** 今年9月に国連で「未来サミット」が開かれる。世界の様々な問題に対応するためであるが、SDGs(持続可能な開発目標)を推進する本村でも周知や学校教育等へ対応は必要ではないか。



**答弁** (総務部長) SDGs達成の目標年限は2030年であり、今後も教育活動への推進や必要に応じた周知を図りたい。

**質問** 「孤独・孤立対策」を再質問する。

**答弁** (総務部長) 引き続き関係機関等と連携し実施して

い。

「交流人口の増加について」

**質問** 全国的な人口減少の中、地方では「定住人口」の増加が難しい。交流や関係人口の増加に向け、次を提案する。「地域居住」と「田舎のシェアハウス」、さらに「全国みほちゃんネットワーク」や「縄文(陸平)」、「光と風の丘公園」の活用等。

**答弁** (総務部長) 各提案については、民間企業への積極的なサポートを含め連携と研究を進めていく。

※他に、災害対策として「災害ケースマネジメント」の取り組み、「災害時のトイレ対策と責任の明確化」「トイレ型トイレの検討」について質問を行った。



## RSウイルス感染症 ワクチン接種について



はやし しょうこ  
林 昌子  
議員

**質問** 60歳以上のRSウイルス感染者は年間70万人と推定されており、入院期間が長期間で寝たきりになるケースもある。

①疾患周知・注意喚起は。  
②RSウイルスワクチン接種費用の一部負担は。

**答弁** (保健福祉部長)  
①リーフレット作成、ポスター掲示、広報・HP等で周知を図る検討をする。

②国の動向を見ながら、近隣自治体と情報共有し、副反応等の発生や費用の助成について注視していく。

**答弁** (村長) 国として費用助成の方向性ができれば村とし

て早めの判断をして参りたい。

### フッ化物洗口推進事業について

**質問** □腔内疾病予防が全身の健康を維持促進させることに直結すると言われている。

①予防対策として、乳幼児・小学校での取り組みは。  
②フッ化物洗口等の取り組みは。

**答弁** (保健福祉部長)

①1歳6か月児検診時に歯磨き指導、2歳児及び3歳児歯科健診時に歯磨き指導及びフッ化物塗布。小中学校は給

食後の歯磨きに加え、毎年、虫歯予防や正しい歯の磨き方の指導を行っている。

②令和4年11月から幼稚園と保育所の4・5歳児で実施。小中学校では教職員の負担が多く未実施。

その他、低出生体重児等の就学猶予又は免除について質問。

## 本村、自主防災組織について



つかもと こうじ  
塚本 光司  
議員

**質問** 地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から、地区が行う自主的な防災活動は重要である事を踏まえて、まずは村内全自治区の自主防災組織の現状をここ3～4年の間の発足等と過去に遡っての其れを示して下さい。

**答弁** (経済建設部長) 10組織地区数では21地区、令和3年布佐地区(布佐東・西、台で構成)、安中東部地区(大山・東部、馬掛で構成)、木原地区(浜、登宿、上宿、後宿、田中、山戸丁で構成)、大谷地区(石灘、根古屋で構成)、舟子地区(上・下舟子で構成)。

また、見晴台、花見塚、牛込みどり台地区は、区長を中心に早くから結成し活動している。尚、村内行政地区人口から美駒地区を除き、概ね30%超の組織率と認識する。

**質問** かつて議会視察にて、先進地の松山市の例であるが自主防災組織加入率100%その10年前は加入率40%程であったらしい。人口密集地であるうがなかるうが、自主防災の意識を高める事の重要性に違いはない。更なる努力を期待します。

他に、②村として公の立場から啓発活動は、具体的活動例  
③村内の防災士の登録者数、  
④地域、地区の防災リーダーとして活動仕組みづくり、  
⑤機能別消防団について過去の答弁への進捗確認など。